

# 1 主題構成表

主題名 「節度ある生活」(小学校第4学年)

資料名 「少しだけなら」

## 内容項目1ー(1)

自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

### ■ 内容項目から見た児童の実態(意識)

- ・自分本位な考え方から行動してしまい、周りに迷惑をかけてしまうという意識が弱い。
- ・興味関心が先に立ち、自己の行為が及ぼす影響まで考えることができない。

### (要因)

- ・自分のやりたいことを優先し、思いのまま行動してしまうことで他の人に迷惑がかかるということに気付いていない。
- ・みんなもやっているからと、自己中心的な考えに偏ってしまう。
- ・節度ある生活は、だれにとってもよりよい生活をつくるために必要なことであるという認識が弱い。

### ■ 価値の分析

- ・進んで自分の生活を見直し、思慮深く考えながら自らを節制していくことは、節度のある生活ができるために大切である。
- ・中学年になるとそれまで以上に自分を客観的に見つめ、内省することができるようになる。そして、主体性のある自己の形成へとつながっていく。だからこそ、自分自身が心からそうすることが望ましいことだと自覚し、節度ある自制心が培われるようにすることが大切である。
- ・そのため、この時期の児童に、他から言われるのではなく、自ら考えて度を越さず節度のある生活をしようとする心を育てたい。

### ■ 資料の分析

- ・本資料は、パソコンで調べ学習をする主人公が、パソコンを使う時の約束を守れず先に進みそうになるが、自ら考えてパソコンの電源を切ることができたという内容である。
- ・誘惑に負け、ゲームソフトの割引券がもらえるサイトに接続してしまった主人公のやりたいことを優先させてしまう弱い気持ちに共感させることができる。
- ・名前を入力している途中で、パソコンの電源を切った主人公の気持ちを考えさせることで、誘惑に負けないで欲望を理性で抑えて自ら考えて行動したことに気付かせ、節度ある生活をする事の大切さについて考えを深めることができる。

### ■ ねらい

自分の思いのままに行動してしまう弱い心に打ち勝ち、自ら考えて行動することがよりよい生活をつくることになることに気づき、節度のある生活をしようとする態度を育てる。

### ■ 展開の構想

- ・約束よりも割引券が気になってしまい、深く考えずに約束を破ってサイトをクリックした主人公の気持ちに共感させる。
- ・タイマーの音ではっとして自分のやろうとしていたことに気づき、パソコンの電源を切る主人公の考えたことに共感させる。
- ・お母さんにほめられてもすっきりしなかった主人公の気持ちを考えさせる中で、自分でよく考えて行動することの大切さに気付かせる。
- ・「少しだけなら」と迷ったけれど我慢できた、そのときの気持ちを大切にしていこうとする意欲を高める。

### ■ 基本発問(◎中心発問)

- もう一度パソコンの電源を入れた時、あつしはどんな気持ちだったでしょう。
- じっとパソコンの画面を見つめたあつしはどんな気持ちだったでしょう。
- ◎お母さんに「えらかったわね。」と言われ、下を向いてぼつりと答えたあつしはどんな気持ちだったでしょう。
- これまでに、「少しだけなら」と迷ったけれど我慢できたことやできなかったことはありますか。



## 2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>◇節度について価値への方向付けを図る。</p> <p>○自分で考えてできたこと、できなかったことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、自分で起きられること。</li> <li>・宿題を始める時間が守れていること。</li> <li>・ゲームの時間が守れないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしたちの道徳」の「節度ある生活をするために大切なこと」(P10・11)を参考にし、自分で考えたことで、できていることと、できていなかったことを発表することでねらいとする価値への方向付けをする。</li> </ul>
展開前段	<p>◇資料提示(教師の読み聞かせ)をする。</p> <p>○もう一度パソコンの電源を入れた時、あつしはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見るだけなら少しぐらいはいいかな。大変なことにはならないだろう。</li> <li>・みんなもきっとやっている。</li> <li>・どんな割引券かな。ちょっとだけならいいだろう。</li> <li>・お母さんとの約束があるからやめておこう。</li> </ul> <p>○じっとパソコンの画面を見つめたあつしはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もうちょっとやりたかったな。</li> <li>・約束をしたのに、やぶってしまった。</li> <li>・やっぱりよくないな。やらなきゃよかった。</li> </ul> <p>◎お母さんに「えらかったわね。」と言われ、下を向いてぼつりと答えたあつしはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんとの約束をやぶってしまってよくなかった。</li> <li>・名前や住所まで入力しようとしてしまった。</li> <li>・少しだけならいいかなと思って、自分の弱い心に負けてしまったからなさけないな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【深めの発問】</b> お母さんを心配させるような『大変なこと』にはならなかったからよいのではないか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変なことにならなかったけれど、深く考えないで自分のやりたいように行動してしまった。今度からは、自分でよく考えて行動しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんとの3つの約束『時間を決める』『あやしいサイトは見ない』『名前や住所などは入力しない』を確認し、お母さんとの約束をきちんと守ろうとしているあつしの気持ちをおさえておく。</li> <li>・一度は電源を切ったが、割引券が気になって仕方がない主人公が、もう一度、パソコンの電源を入れて、どきどきしながらも深く考えていなかったことに共感できるようにする。</li> <li>・名前の入力途中だけれど、パソコンの電源を切ったあつしの気持ちを考えさせることで、興味本位な行動を控えようとしてことを押さえ、自ら考えて行動したことに気付かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>●言語活動の充実 違う視点からの発言を見逃さずに価値付け、多様な感じ方や考え方に気付くことができるように板書で感じ方や考え方を整理する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あつし自身が自分の行動を素直に反省していることに気付かせる。</li> <li>・「少しだけなら」という深く考えない行動が、よくないことに気付かせる。</li> </ul>
展開後段	<p>○これまでに「少しだけなら」と迷ったけれど我慢できたことやできなかったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの時間を決めているが、少しだけならいいと思ったけれど、我慢をしてやめることができた。そしたら、いつもより早く宿題を終えることができた。うれしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気付かせたい価値の視点から今後の自分を考え、実践への意欲を高める。</li> <li>・行為のみではなく、その時の気持ちも語るようにする。</li> </ul>
終末	<p>◇教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で決めたことを、誘惑に負けてできなかった時の後味の悪さについて具体的な事例を話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の経験から具体的な事例を意図的に話す。</li> </ul>



### 3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

<児童の意識>

<指導・援助>

教科等  
「インターネットの使い方」  
・インターネットの便利さとともに、インターネットが世界に通じていて、個人の情報がすぐ見られてしまう危険性について理解することができる。

帰りの会  
・自分の一日の生活を想起し、自分で考えてできていることと、できていないことについて振り返る。

道徳の時間（7月）  
「少しだけなら」  
内容項目 1-（1）  
・自分の思いのままに行動してしまう弱い心に打ち勝ち、自ら考えて行動することが、よりよい生活をつくることになることに気付き、節度のある生活をしようとする態度を育てる。

学級活動（7月）  
「夏休みのくらし」  
・よりよい夏休みの生活になるよう、やらなければならないことを明確にさせて、具体的な計画を立てることができる。

【日常の活動】  
○朝の会  
・一日をよりよく過ごすためのめあてをもつことができる。

○清掃活動  
・気持ちよく過ごせる教室になるように、自分の分担を時間いっぱい使って、きれいにすることができる。

○係活動  
・よりよい生活となるように、自分の仕事は、きちんと行うことができる。

・インターネットは、便利だな。  
・おもしろい情報がたくさんある。時間がたつのを忘れてしまう。  
・インターネットを悪い方向に使う人もいる。  
・きちんと決まりをつくって正しく使おう。

・自分のやるべき仕事はできた。  
・やらなければならないと思っていたけれど、他のやりたいことを優先してしまったので、できなかった。

・自分だけがちょっとだけと思って行動すると、他の人に迷惑がかかることがある。  
・人に言われるのではなく、自分できちんとやろうとすることが大切だ。

・いよいよ夏休みだ。自分が立てた計画を守れるようにしよう。  
・学習、早寝早起き、お手伝い、体力づくりなど、自分がやりきれないようにきちんと決めてがんばりたい。

・インターネットの活用方法とともに便利さ、危険性について理解できるようにする。  
・インターネットを正しく使うことで生活が豊かになっていくことにふれる。

・与えられた仕事でも自分でやろうとしたことに着目するようにする。  
・行為のみではなく、どうしてできたか、できなかったが意識できるようにする。

・だれにでも自分の思いのままに行動してしまう弱さはあるが、そんな自分を見つめ直し、節度のある生活をする中で、気持ちのよい生活をつくりあげることができるという意識につなげる。

・無理な計画にならないように助言する。  
・夏休みのくらしについて保護者に知らせ、家庭でも節度のある生活について話してもらえるように働きかける。



## 少しだけなら

「ねえ、お母さん、パソコンを使ってもいいかな。学校の調べものがあるんだ。」  
あつしたちは、総合的な学習の時間で、遠足のパンフレット作りをしています。  
あつしは、中央公園の担当になりました。  
「だめよ、きちんと使わないと。たいへんなことになるんだから。お母さんは今から買いものに行くから、帰ってきたらいっしょに見てあげるわ。」

「大じょうぶだよ、学校で習ったから。みんなも、家で使っているって言っていたよ。」

「本当に、大じょうぶなの。」

「ちゃんとやくそくを守るから。ぼくをしんじて。ねっ。」

あつしは、パソコンを使うときは『時間を決める』『あやしいサイトは見ない』『名前や住所などは入力しない』。ということをお母さんとやくそくしています。

「大じょうぶね、しっかり守るのよ。」

お母さんは、そう言うと言いのに出かけました。

「いつものように、タイマーをセットして・・・。」

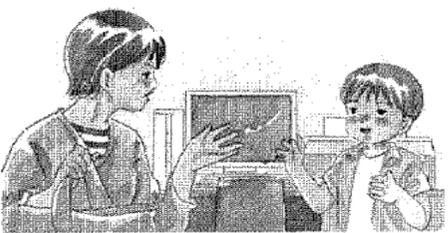
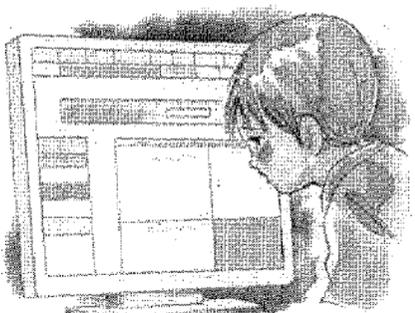
あつしは、さっそく、パソコンに向かいました。「中央公園」と入力すると、うまくサイトを見つけることができました。

「よし、これをいんさつしたら、できあがりだ。」

そのときです。画面の右はしに、気になるものを見つけました。

「なになに、ゲームソフトのわりびきけんがもらえるのか。でも、あやしいサイトは見ないって、お母さんとやくそくしたからな・・・。でも、少しだけなら、大じょうぶだろう・・・。」

あつしは、おそろおそろ、クリックしてみました。



『あなたの名前と連絡先れんらくさきを入力してください。』

「ええっ、名前を入れないとダメなのか……。仕方しかたないな。」

あつしは、パソコンの電源でんげんを切り、中央公園のいんさつぶつを整理せいりし始めはじめました。でも、あつしは、ゲームソフトのわりびきけんが気になつて仕方ありません。「少しだけなら、いいかな。それに、お母さんもまだ帰つてきていないし。」

あつしは、もう一度、パソコンの電源を入れ、先ほどのサイトにすすみました。

「名前と連絡先か……。少しだけなら、大じょうぶだろう。

きつと、みんなもしているよ。」

どきどきしながら、名前を入れはじめたときです。

ピピッ、ピピッ、ピピッ。

タイマーの音がへやの中にひびきわたりました。あつしは、はっとしてキーボードから手をはなしました。

カチッ。タイマーの音を止めたあつしは、じっとパソコンの画面を見つめました。  
(ふう……。)

大きいためいきをついたあつしは、ゆっくりとゲームソフトのサイトをとじ、パソコンの電源を切りました。そして、中央公園のいんさつぶつを整理し始めました。そこに、お母さんが買ひものから帰つてきました。

「ただいま。あらっ、ちゃんと使えたのね。やくそくも守って、えらかったわね。」

「うん……。」

あつしは、下を向いて、ぽつりと答えました。



内容項目 一―(一)

出典 小学校道徳読み物資料

(平成二十三年三月 文部科学省)